

視察研修 報告書

令和 6 年 11 月 15 日

坂原 正勝

日 程：令和 6 年 10 月 21 日(月)～10 月 23 日 (水)
場 所：①宮城県利府町②岩手県陸前高田町③岩手県大槌町
④岩手県釜石市⑤・⑥岩手県紫波町
参 加 者：竹原議長・松尾副議長・谷地監査委員・大里議員・早川議員
中原議員・奥野議員・道工議員・谷崎議員・出口議員・坂原
事務局 増田局長・池田係長

研 修①

日 時：令和 6 年 10 月 21 日(月)10 時 00～11 時 30 分
場 所：利府町議会 議員全員協議会室
利府町文化交流センター「リフノス」
宮城県宮城郡利府町利府字新並松 4 番地

担 当：利府町議会 鈴木 議長
古澤 教育委員会生涯学習課長
鈴木 教育委員会生涯学習課課長補佐（リフノス係長）
鎌田 教育委員会主幹
事務局 川口局長

内 容： テーマ「文化交流センター・リフノス」について
文化交流センター「リフノス」は図書館・公民館・文化会館の機能を
併せ持つ複合施設として、令和 3 年 7 月 1 日にオープン。
以前から最も要望が高かった図書館建設の実現に向けて平成 18 年 3
月には議員発議により利府町文化芸術振興条例が制定された。
途中、東日本大震災により、計画を一時中断を余儀なくされたが、
平成 24 年から基本構想・基本計画について検討を開始。
基本設計の検討については、施設の利用者や一般公募による町民と 8
回のワーキンググループの開催で議論を深めた。完成後は開架冊数 8
万冊の図書館と 431 席の可動席を備えた文化ホールなどが併設され、

施設管理は指定管理者制度を導入し経費削減に努めている。
図書館建設に向け動き出した岬町にとっては成功事例として参考にするため視察研修に臨んだ。今後の本町の取り組みに活かしていきたい。

研 修②

日 時：令和 6 年 10 月 21 日(月)15 時 00 分～17 時 00 分

場 所：陸前高田市役所 7 階 市議会委員会室
岩手県陸前高田市高田町字下和野 100 番地

担 当：陸前高田市議会 及川 議長・鵜浦 副議長・小林 議員・木村 議員
事務局 山田局長

内 容： テーマ「議会 BCP について」

本町において、議会災害対策行動マニュアルの策定に向けて取り組んでおり、その先進自治体に学ぶため訪問した。

「議会の災害対応と運営について」、2011.3.11 東日本大震災発生時の対応とその後の動きについて説明を受けた。

3 月定例議会、委員会開催中に地震が発生。その時の議員の行動は災害時の取り決めがなく各自の判断で行動し、庁舎に残る議員、自宅に戻る議員など対応がまちまちだった。

地域も自宅も被災しなかった議員は、どうしていいかわからず身動きが取れなかった。

地域が被災した議員は地区コミュニティの中心として救援活動に当たった。

自らが被災者となった議員は、避難所にて中心的な活動を行った。

後に、避難住民から、議員が何をやっているのか一向に見えない。避難所回りもしない。との声が聞かれた。

結果として、初動において議会として有効な活動が出来なかったことから大規模災害発生時の指針が必要とのことからマニュアルを作成するに至った。

議会の災害対策を、時期と、行動原則、行動基準を定めマニュアルの概要を策定し、合わせて地震発生・津波警報等発表時フローをまとめ議会と議員の動きを明確に取り決めた。

それまで各議員から行政に対し各々に情報提供や要望を伝えていた

ものを、各議員から「議会災害対策会議」に報告し、そこで取りまとめて分類・選択したのち行政と情報提供を双方向で行うとした。
現在、本町においても警報発令中、各地の情報提供・要望を各議員個人から直接、行政に届けている。
先進事例に倣い、有効な岬町議会災害対策マニュアルにしていきたい。

研 修③

日 時：令和 6 年 10 月 22 日(火)10 時 00～11 時 30 分

場 所：岩手県上閉伊郡大槌町

担 当：一般社団法人 おらが大槌夢広場 語り部：五十嵐 欄

内 容： テーマ「東日本大震災とその復興」

語り部の五十嵐さんは発災当時中学生。震災で祖母や友人、知人を亡くした経験から、高校大学生活を通じて震災の経験談を伝える活動をしてきた。その後、地元に残り就職・結婚・出産を経験したが、この大震災を被災した自分が後世に伝え残さなければ、人々の記憶から忘れられる。すでに記憶が薄れてきている現状から、やがてこの大震災がなかった事になってしまう。あれだけ恐ろしく、辛く悲しい経験を教訓にせず、無駄にするわけにはいかない。との強い想いと覚悟から語り部として生きてゆくことを選択した。

旧町役場跡地は当時の面影は何もない雑草地。町の災害対策マニュアルでは、地震発生後は役場を出て高台へ避難し対策本部を置くことになっていたが、津波高さが想定より低かった事により、旧役場に対策本部を設置した結果、町長はじめ多くの人命が失われた。

当時、語り部も非難した高台から見える風景は、津波が押し寄せる様子をテレビで見た場所。当時、ここにいた人は恐怖と寒さと不安な気持ちと悲しさ、悔しさに苛まれて、どれほど心が痛んだのだろう。と心が締め付けられる想いがした。

この教訓を活かすべく、本町の災害対策に取り入れていきたい。

研 修④

日 時：令和 6 年 10 月 22 日(火)13 時 30～15 時 00 分

場 所：釜石市役所 第一会議室
岩手県釜石市只越町 3 丁目 9 番 13 号

担 当：釜石市議会 千葉議長
産業振興部商工観光課 前川課長補佐
(株)かまいし DMC 河東代表取締役
国際観光振興機構 茅野マネージャー

内 容： テーマ「DMO による観光地域づくり」

DMO とは観光地域づくり法人のことで、地域の稼ぐ力を引き出し、地域への愛着と誇りを醸成する地域経営の視点に立った観光地域づくりの司令塔。民間企業や役所など多様な関係者と協同しながら観光地域づくりを進めていく法人。

釜石市では、2019 年のラグビーワールドカップ開催を見据えて 2018 年に DMO を設立。

まず観光資源の発掘から始め、ターゲットを絞る観光客誘致に努め、年間 15 万人の宿泊客を確保している。

一時的な観光客増加ではなく、持続可能な観光を生み出すための基盤は、地元の経済発展がなければならない、との結論に達した。

SNS 発信による誘客で 2023 年の宿泊客数は 16 万人になったとの事。本町にそのまま取り入れることは難しいと考えるが、観光客誘致方法など参考にしていきたい。

研 修⑤

日 時：令和 6 年 10 月 23 日(水)9 時 30～11 時 45 分

場 所：オガール紫波株式会社

岩手県紫波郡紫波町紫波中央駅前 2 丁目 3 番地 3

担 当：オガール企画合同会社 八重嶋 雄光氏

内 容： テーマ「オガールプロジェクト」

紫波町は、JR 紫波中央駅前の町有地を中心とした都市整備を図るため、町民や企業の意見を聞き平成 21 年 3 月に議会の議決を経て紫波町公民連携基本計画を策定した。この計画に基づき始まった紫波中央駅前都市整備事業のことを「オガールプロジェクト」という。

オガールとは、成長を意味する方言「おがる」と駅を意味するフランス語の「ガール」という二つの言葉を組み合わせた造語で、紫波中央駅前を「紫波の未来を創造する出発駅」とする決意と、このエリアを出発点として持続的に成長していく願いが込められたもの。

新駅設置運動の結果、設置された紫波中央駅の駅前 10.7 ヘクタールの土地の有効利用を模索から、公民連携によるまちづくりへとたどり着いた。「公」が所有する土地に「民」の資金で建設・運営する方式。エリア内には役場庁舎・図書館・保育園・フットボール場・飲食店・貸事務所・バレーボールコート・分譲住宅地・宿泊施設・クリニック・産直市場などが整備され、民設の施設はすべて民間が運営しており、町には使用料が入る仕組み。令和 4 年の来場者数は 85 万人、視察受け入れ件数 150 件に上る。

図書館建設を模索する本町として参考にしたい。

研 修⑥

日 時：令和 6 年 10 月 23 日(水)13 時 00～15 時 00 分

場 所：紫波町役場 301 会議室

岩手県紫波郡紫波町紫波中央駅前 2 丁目 3 番地 1

担 当：紫波町議会 武田議長・熊谷議運委員長

内 容： テーマ「議会改革」

紫波町議会では早くから議会改革に取り組んでいるが、その中でも特に「議会基本条例の策定」について研修した。

平成 23 年 12 月に議会のあり方検討委員会で条例の制定目標を決め、平成 24 年に先進自治体の北海道栗山町議会・福島町議会に視察研修。その後全国の先行事例 14 本を選定し、各委員に 2 本ずつ割り当てて福島町議会基本条例をベースに追加・削除・変更を加えて決定。

その後条文を整理するにあたり専門的知見をかつようするため学識経験者に依頼。また、条例に町民の意見を反映させるため一般公募し、講師を招き講演会を開催。その後修正・協議を重ね、平成 26 年 4 月 1 日、紫波町議会基本条例を施行した。

本町でも条例策定の動きはあるが、難航しているため、ぜひ参考に進めていきたい。